



海浜ゲーム すいかわり

① 青少年相互の交流によって孤立感を克服し、青少年の間に連帯感を育てる。
 ② 青少年の持つ現実的な課題をみずからの力によって解決していくために必要な資料や場を提供する。
 研修団体にあっては、青年の家のねらいを踏まえて、団体や研修生の実態の上に、より具体的なねらいをたてる必要がある。
 ③ プログラム編成の基本的な考え方の家（生活体系）と研修団体等が主体的に組む研修内容からなると考えられる。
 研修団体が組む研修内容は、



松川浦でのキャンプファイヤー

- ① 講話的要素＋活動的要素（野外活動等）＋話し合い的要素＋奉仕的要素＋自由交歓的要素という構成がふつうである。
 ② 活動的要素を重視しながら、受動的なものよりも自己の意思を表明しなければならぬ場合があったり、個人の参加意識がはっきり生れるような積極的、能動的な性格のものの方が研修生の意識や行動の変化は強くなる。
 プログラム編成に当たって
 ③ 利用目的はいろいろあっても、規律正しい共同宿泊研修をすることによって、研修生同志の心のふれあいがじゅうぶんはかれるようなプログラムにしたい。

表2 プログラム例

●在学青少年の例

日	第1日	第2日	第3日
ねらい	新しい仲間と生活する日	協力を高め、そして友情を高める日	きたときよりも、かしたときよりも、うつくしくなる日
具体的めあて	研修生の期待感をたいてせつにし、入所に伴う緊張感をやわらげながら仲間づくりと連帯感を高めたい。	第1日目には芽ばえたら「新しい仲間」協力を高め、助け合いと忍耐心を養うようにしたい。	自主性、責任感、奉仕の精神を発揮させたい。
研修内容	入所のついでフィールドワーク 野外活動事前学習 交歓会（レク、ゲーム）	鶴ノ尾岬ハイキング オリエンテーリング 臨海実習 キャンプファイヤー	砂の芸術 奉仕作業 自主清掃 見学学習 退所のついで

●勤労青少年の例

- 【例1】
 ○参加者の構成 勤労青年、地域青年会、青年学級、青年教室
 ○研修のねらい 青年会活動のあり方を究明するとともに青年団体活動に必要な知識技能を習得し、会員相互の親睦を図る。

	研修活動Ⅰ	研修活動Ⅱ	研修活動Ⅲ
第1日		入所のついで、オリエンテーション	講話「青年に期待する」 交歓の夕べ「ついでのもち方」
第2日	討議「青年会活動のあり方とリーダーの役割」	野外活動ハイキング	退所

- 【例2】
 ○参加者の構成 勤労青年、青年グループ・サークル
 ○研修のねらい 次代をになう青年としての責任を認識させ、使命感、連帯感の高揚を図る。

	研修活動Ⅰ	研修活動Ⅱ	研修活動Ⅲ
第1日		入所のついで、オリエンテーション	講話「余暇と労働」 みんなで楽しく踊ろう（交歓会）
第2日	座談会「青年とボランティア」	松川浦めぐりサイクリング（弁当）	退所

- ④ 当所の施設・機能の特性を生かすことを配慮したプログラムにしたい。
 ⑤ プログラム編成上の留意点
 ⑥ 効果的で変化に富み、魅力あるプログラムを組むことがたいせつである。
 ⑦ 心のふれあいやいろいろな人の生き方を学ばせるために、他団体との交歓を図りながら活動できるようなプログラムも考えてみる。
 ⑧ 単発的な思い出作りの行事として青年の家を利用するのではなく、研修団体の教育計画の一環として利用するという目的を明確に持つプログラムにしたい。
 ⑨ プログラムの内容とそのすすめ方については、研修生の実態に即するようにしたい。
 ⑩ プログラムの作成には、研修生も参加させるようにする。
 ⑪ 引率指導者は、共通理解を図り、自分の団体の指導に放任的、傍観的にならないようにする。
 プログラム例（表2参照）
 四、終わりに
 研修活動をより充実させるため、特に勤労青年にあつては、青年の家の職員の指導依頼を大いにとり入れることも一つの方法である。
 今後、利用団体の増加と多様化に伴い、従来の研修内容に検討を加え、利用団体がより効果的な研修活動ができるよう施設設備の充実を図っていきたい。